

事業名：小中連携教育実践研究協力校  
 学校名：福山市立走島小学校 走島中学校  
 所在地：福山市走島町49 58  
 HP：http://edu.city.fukuyama.hiroshima.jp/du-hashiri/jima/  
 対象：5学級 33名、3学級 23名

### 1 研究の概要

#### (1) 研究テーマ及び研究のねらい

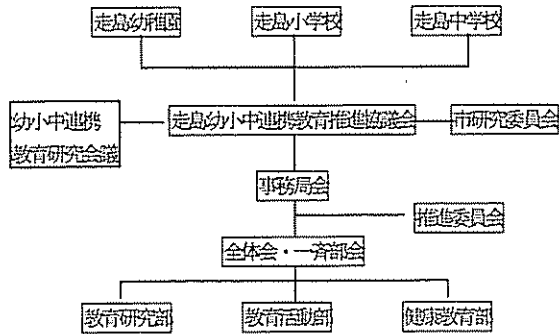
##### ①研究テーマ

幼・小・中連携教育を通して、夢と目標を持ち主体的に活動する幼児児童生徒の育成  
 ～志を持ち自ら未来を切り拓く15歳をめざして～

##### ②研究のねらい

幼稚園・小学校・中学校が「15歳の出口」時点での「目指す子ども像」を明確にし、その実現に向けて教育課題を共有するとともに、教育課程と教育活動の連携を図ることで、子どもたちに生きる目標を持たせ、主体的に学ぶ力をつける。

#### (2) 研究組織・体制



#### (3) 研究内容

「キャリア教育」の観点から「めざす15歳像」を明確にし、実践研究の筋道を「ことばの教育」「心の教育」「健康教育」の3本柱で構築していく。

##### ①「ことばの教育」(教育研究部会)

「思いを伝え合うことばの力の育成」を重点課題として、中学卒業時に、相手意識・目的意識を持った表現ができることを目指してスキル学習、授業での発問の工夫、行事での意見発表などの取り組みを行っている。

##### ②「心の教育」(教育活動部会)

「あいさつが進んでいける子どもの育成」を重点課題として、合同行事を通して中学生が小学生や園児にリーダーとしての声かけやあいさつ指導を行ったり、行事終了後には児童会・生徒会合同会議で、子どもたち自身が挨拶や言葉遣いの視点を入れて反省会を開き評価を行っている。

##### ③「健康教育」(健康教育部会)

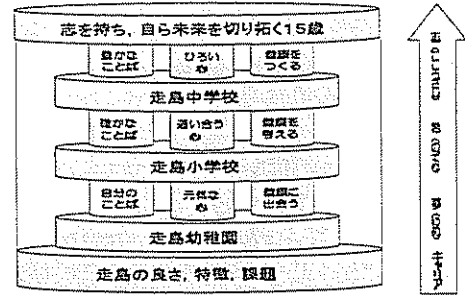
「バランスのとれた朝食摂取の習慣を付ける」を重点課題として、生活アンケートや料理教室等の実施を通して子ども自身に朝食を意識させたり、給食だよりや劇で朝食の大切さを保護者に訴え、毎日朝食を摂ることに取り組んでいる。

### 2 授業改善の視点

#### (1)「走島プラン」の作成

キャリア教育の視点を軸に、「目指す15歳像」を明

らかにした。



#### (2) 検証の視点の焦点化と評価基準の設定

それぞれの部会で、2～3設定していた取組みを、1つに絞り、具体的な子どもの姿を指標とする。

そのため、12年間を通してそれぞれの発達段階でつきたい力を検討し評価基準を設定する。

#### (3)「ことばの教育」の視点を取り入れた授業規律

小学校・中学校では、発表の仕方・聞き方など「ことばの教育」の視点を授業規律に位置付け、各授業で取り組む。

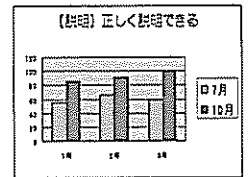
### 3 研究の成果と課題等

#### (1) 成果

##### ①ことばの教育

・主語、述語、理由を言うことを意識し、必要な場面では、話すこと書くことに使えるようになってきた。

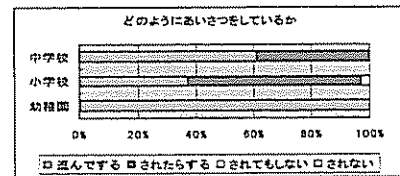
・ことばで伝え合う学習や活動を増やしていったことで、全体の場でも恥ずかしがらずに自分の意見が言えるようになってきた。



##### ②心の教育

・あいさつを目標に掲げ、児童会や生徒会が自主的に取り組み始めてから、あいさつに対する意識が芽生えた。

・幼児については、認め励ますことで、あいさつを積極的にする気持ちにつながった。



##### ③健康教育

・取組みにより、朝食を毎日摂れるようになってきた。

・生活点検を実施することで、生活習慣に対する意識が向上してきた。また、保護者啓発にもなり、朝食に対する理解・協力を得ることができてきた。

##### ④全体として

・「キャリア教育」「ことばの教育」の視点で、連携教育の全体構想を再構築し、「15歳の出口」でつきたい力を明らかにすることができた。

・課題の焦点化、仮説、取組み、検証という流れにそって研究を推進することで、教職員が研究の手法を意識するようになった。

・各部とも、12年間を通した評価基準を設定し、発達段階に応じた力が付いたかどうか評価しやすくなった。

・授業における連携(幼小合同授業、小中合同授業、協力授業など)を進めることができた。

(2) 課題

①ことばの教育

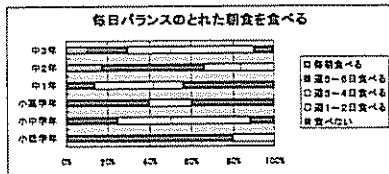
- ・国語、ことばの学習の時間や、決意発表をする場面では、スキルを意識して使うが、他の授業や生活の中では、発表が単語発言になるなど、スキルが活用できていない。

②心の教育

- ・実態アンケートから、理由はさまざまであるが学年が上がるにつれてあいさつが進んでできない傾向にある。

③健康教育

- ・緑の食品が摂れていない。(野菜嫌いな子が多い)
- ・学年が上がるにつれて、早寝早起きのリズムが崩れ、バランスのとれた朝食が食べられにくい傾向にある。



④全体として

- ・評価やアンケートが実態把握にとどまり、改善に活かされていない。
- ・各部の取組みが、全体または他の部の取組みに活かされていない。
- ・授業における検証の視点が明確に設定できていない。

(3) 今後の改善方策等

①ことばの教育

- ・他教科、領域、生活の中で、言語スキルが効果的に活用できるような方法を研究・実践していく。

②心の教育

- ・進んであいさつができない原因を分析し、合同行事や日々の生活を通し実践していく。

③健康教育

- ・バランスのとれた朝食摂取を目指す。そのため、起床時間、就寝時間などの生活のリズムについても、意識を向上させていく。

④全体として

- ・成果を数値で検証するなど、信頼性のある評価方法を工夫し改善に活かす。
- ・各部の課題に対し、その背景を探り、改善のための手だてを検討し、各園校または他の部でも取組みを進める。
- ・系統表をカリキュラムに組み込み、日常的に活かしながら改善していく。
- ・互いの授業を交流・分析し、内容を向上させながら授業改善につなげていく。

4 実践事例

(1) ことばの教育

【幼稚園で】

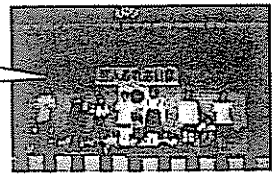
- ・自分を表現するのに、「〇〇は・・・」と自分の名前を言うのではなく、一人称を意識し、場に応じて「ぼくは・・・」「わたしは・・・」の表現ができるようにしている。
- ・「〇〇組のお休みは△△ちゃんです。」とか、「敵に刺されたので、薬を塗ってください。」など、最後まできちんと言えるような指導をしている。

【小学校で】

- ・「ことばタイム」を月1回設定し、全校でベクトルをそろえスキル学習を行なっている。主に、問答ゲーム、描写、絵の分析、自己紹介などである。

- ・「ことばタイム」で学んだことを基に、委員会活動での発表や、敬老会での意見発表などで、分かりやすくはっきりと伝えることができています。

私の将来の夢はケーキ屋さんになることです。わけは2つあります。



【中学校で】

- ・生活に新聞を取り入れ、記事を読むことに慣れるとともに、内容の要約、感想、意見の発表に、学習したスキルを活用する取組みを行っている。

私が今日選んだ記事は・・・です。この記事を読んで、・・・



- ・各行事（始業式・終業式・合宿・壮行式・立志式）では、全員が意見発表をしているが、型を提示し、型を超えることを目指している。
- ・全ての授業で、論理的な思考ができる発問を入れること、定期テストに「ことばの力」を使って解く問題を入れることに取り組んでいる。

【合同授業で】

- ・幼小合同授業では、小学生が幼児に「分かるように伝えること」「リーダーシップをとって説明すること」などをめあてに、取り組んでいる。
- ・中合同授業では、中学生と小学生が英語や国語の授業を一緒にを行い、中学生が小学生に分かりやすく教えることを通して、コミュニケーションの大切さを考えさせている。



英語の合同授業

自己紹介をしようね!



説明会

(2) 心の教育

【合同行事で】

- ・合同運動会では、中学生がリーダーとしての自覚を持つよう、あいさつ、返事、次の行動の指示を意識して行うよう取り組んだ。
- ・合同クリーン活動では、生徒会・児童会の執行部に地域への協力依頼の文書を作成させ、文書を地域の人に渡す時の適切な対応を指導した。また、中学生、小学校高学年には、クリーン活動中のあいさつや、グループ内の年少者への配慮ある声かけを意識するよう指導した。



出発前のミーティング

目標や反省を話し合い、活動後みんなの前で発表する。

(3) 健康教育

【朝食づくり】



朝食づくり

- ・朝食に関心を持つことと、朝食を作る技能を身に付けることをねらいとして朝食づくりを実施している。年1回小学生高学年・中学生を対象に行なっている。